

令和 7 年度

【長期研究 4】

小児医療にトラウマインフォームドケアを取り入れる方法の検討

米国における取り組みの調査

要旨 小児医療においては身体的にも精神的にもストレスの大きい治療を必要とする子どもは多い。医療従事者はより深くトラウマについて理解するとともに過去のトラウマやトラウマの影響についての理解も加えて対応してゆくことが必要であり、トラウマインフォームドケア（trauma-informed care : TIC）の広がりが必要とされる。我が国の小児医療における普及を目的に、米国における小児医療における TIC 普及に関する取り組みを調査した。ウェブサイトにおいて、3 分程度の動画、1-2 時間程度の研修動画、すぐに利用できるツールキットやパンフレットなどさまざまなツールが無料で利用出来る体制が作られていた。TIC を学ぶ上でそれぞれの段階に応じて適切なツールがあり、モチベーションを保ちながら学ぶための工夫がなされていると思われ、わが国においても、このように利便性の高いツールの提供へさらなる工夫が必要であると思われる。

研究体制：三宅和佳子，酒井佐枝子，加藤寛

I. はじめに

小児医療においては、長期入院や身体的にも精神的にもストレスの大きい治療を必要とする子どもは多い。またその家族にとっても同様である。医療従事者においても、子どもの病状の変化や死に直面することも多く、バーンアウトに至ることや組織の分断がおきることなどが知られている。トラウマに関連する影響は、対象の子どもや家族のみでなく、医療従事者から病院組織全体へと波及する。

従来から小児医療においては子どもにとって入院や治療そのものがトラウマとならないような働きかけを継続してきたが、より深くトラウマについて理解するとともに過去のトラウマやトラウマの影響についての理解なども加えて対応してゆくことが必要である。また、家族や医療従事者へのトラウマ予防の観点・健全な組織の構築・チーム対応やシステムを作ることの観点からもトラウマインフォームドケア（trauma-informed care : TIC）の広がりが必要とされる。

米国では医療従事者の研修に TIC を取り入れる動きなどが始まってきている。米国における取り組みに関する知識を得ることで、わが国の小児医療における TIC の普及や、根付くための方法への足がかりを得ることを目的とする。

II. 方法

The National Child Traumatic Stress Network(全米子どもトラウマティックストレスネットワーク)

ク：NCTSN), Trauma-Informed Care Implementation Resource Center (トラウマインフォームドケア導入リソースセンター), American Academy of Pediatrics(アメリカ小児科学会：AAP)における子どもの医療トラウマティックストレスに関する研修ツールなどの取り組みについて調査し、関連する文献を精査した。

II-1. The National Child Traumatic Stress Network(全米子どもトラウマティックストレスネットワーク：NCTSN)について

トラウマティックストレスの経験または目撃者となった子どもと家族に対するケアの水準向上とサービスへのアクセス拡大を目的として、2000年に議会により「児童保健法」の一環として創設された。最前線の医療提供者、家族、研究者、全国パートナーで構成されたネットワークであり、ケアの改善と科学的知見の迅速な実践への転換を通じて、臨床サービスの提供、新たな介入手法とリソース資料の開発・普及、教育・研修プログラムの提供、既存のケアシステムとの連携、データ収集と評価の実施、公共政策と啓発活動の推進などを行ない、全米の子どもたちの人生の軌道を変えることに尽力している。NCTSNは薬物乱用・精神保健サービス局(Substance Abuse and Mental Health Services Administration：SAMHSA)が管理し、UCLA-デューク大学国立小児トラウマストレスセンター(UCLA-Duke National Center for Child Traumatic Stress：NCCTS)が調整を担当している。

NCTSNの全国的な影響力は十分に実証されており、約5万人の子ども・青少年とその家族が、このネットワークを通じたサービスから直接的な恩恵を受け、トラウマに配慮した介入手法について200万人以上の専門家を育成してきた。さらに数10万人が、その他の地域サービス、ウェブサイトリソース、ウェビナー、教育製品、地域プログラムなどから恩恵を受けている。NCTSNメンバーは、児童保護サービス、保健・メンタルヘルスプログラム、児童福祉、教育、居住ケア、少年司法、裁判所、軍人・退役軍人家族向けプログラムなど、あらゆる児童支援システムにトラウマインフォームドサービスを統合する取り組みにおいて、1万を超える地方自治体・州レベルのパートナーシップを構築してきている¹⁾。

II-2. Trauma-Informed Care Implementation Resource Center (トラウマインフォームドケア導入リソースセンター) について

Center for Health Care Strategies(ヘルスケア戦略センター：CHCS)が主導し、医療分野全体でトラウマインフォームドアプローチを実践的に導入する方法を明らかにすることを目的としている。ウェブサイトにおいて全米のトラウマインフォームドケア分野の専門家によるリソースを厳選して紹介するとともに、CHCSが主導した全米的な取り組みである、TICが医療分野全体でどのように実践的に実施できるかを理解することを目的としたAdvancing Trauma-Informed Care (トラウマインフォームドケア推進プロジェクト)に参加した医療機関の経験からも多くを引用している。トラウマが健康に与える影響およびTICに関する基礎知識、自身の実践においてトラウマインフォームドな原則を取り入れた医療提供者からの体験談、TICを医療現場に統合する方法を示す現場における事例、ケアへのトラウマインフォームドアプローチを実施するための実践的な戦略とツールなどが紹介されている²⁾。

II-3. American Academy of Pediatrics(アメリカ小児科学会：AAP)について

アメリカ小児科学会は、1918年に5,000万人の命を奪ったスペイン風邪の大流行、第一次世界大戦の惨禍、そして蔓延する貧困と児童労働に対する社会的な懸念を受けて、1930年に子どもたちの健康と保護の向上、そして「小児科学の研究を育み、奨励する」ことを目的として設立された設立95周年を迎える会員数約67,000名の小児科医、小児外科医を中心とする組織である。小児科医一人一人を支え、揺るぎないサポートと指導を提供し、すべての子どもが可能な限り健康で明るい未来を築けるよう支えている。アカデミー設立から10年後の1943年には会員の18%が第二次世界大戦に従軍していたため軍人以外の会員は難民の子どもたちのケア、栄養、そして兵役から帰還した小児科医のための再教育コースの開発に注力するなど、医師の教育にも力を注いできた経緯がある。1960年代までには、貧困や慢性疾患といった子どもたちを取り巻く一般的な問題への取り組みを始めた。2010年頃には、ポリーステートメントや報告書は、有害なストレス、銃による暴力、電子タバコ、オピオイド、メディアの利用、虐待による頭部外傷、溺死、そして不平等といった問題に取り組むものへと変化した。近年では、精神疾患、経済的な不安定さなどは子どもたちの長期的な健康と発達を脅かしているとし、子どもたちの健康を守るために活動が続けている³⁾。

III. 結果

III-1. NCTSNにおける取り組み

(1) Pediatric Medical Traumatic Stress Toolkit for Health Care Providers (2014年)

医療提供者が子どもや家族における医療的トラウマストレスを効果的に評価・治療するためのツールキットである。このツールキットは、医療提供者がトラウマの身体的側面だけでなく感情的側面にも対処出来るように構成されている。TICの基盤となるD-E-Fプロトコルに基づき、医療提供者が苦痛(Distress)への対応、感情的支援(Emotional support)の提供、トラウマを負った子どもと家族への家族中心ケア(Family-centered care)の確保への支援が記載されている。小児医療に関連したストレスが、子どもやその家族に及ぼす可能性があることについて医療提供者の意識を高めること、救急医療から入院病棟、ICUに至るまで、病院内のさまざまな環境において、小児医療の「トラウマに配慮した実践」を推進するための目的で作成されている。事例研究や具体例を伴うTICを実施するための小児医療におけるトラウマティックストレスの包括的ガイドに加え、医療者向けの配付資料として医療従事者が知っておくべきことや小児医療における外傷性ストレスについてのパンフレット、保護者向けの配付資料としてエビデンスに基づくアドバイスや支援の具体的な対応方法が記載された子どもと保護者向けのパンフレット、入院中・退院後に保護者が出来る心的外傷を考慮したサポート・ティーンエイジャーへのサポートのパンフレットなどが含まれている。

(2) Helping a Family with Traumatic Stress when a Child has Cancer (2016年)

小児がんの診断を受けた子どもと家族が経験するトラウマティックストレスを認識し対応するための統合的アプローチについて講義する約 1 時間 30 分の動画である。診断と治療が子どもと家族に与える影響を探り、家族の対応と交差する可能性のある文化的配慮事項について議論し、トラウマティックストレスの評価・管理・治療アプローチを説明している。

(3) Integrated Care Approaches to Traumatic Stress in Children with Chronic Health Conditions (2016 年)

トラウマティックストレスや慢性疾患に直面する子どもと家族を支援するための統合的ケアアプローチに関する情報を講義する約 1 時間の動画である。臨床医、医療提供者、保護者の視点を取り上げている⁴⁾。

III-2. Trauma-Informed Care Implementation Resource Center における取り組み

(1) What is Trauma-Informed Care? (2019 年 1 月)

約 3 分 30 秒の TIC に関して説明したアニメーション動画である。虐待・ネグレクト・暴力などトラウマを経験した患者へのケアについての知見を提供している。トラウマが健康に及ぼす障害にわたる影響、TIC が患者・医療提供者・スタッフにとってより居心地のよい環境をどう作り出すかについて理解できるようになっている。対象は、患者全般であり子どものみではない。TIC の基本がよくわかるものである。英語とスペイン語の字幕があり、ネイティブユーザー以外でも利用しやすい⁵⁾。

(2) Trauma-informed care can help improve patient outcomes

約 1 分 30 秒の動画など短時間の動画によって、TIC について説明している。トラウマインフォームドアプローチを採用することには、患者だけでなく医療提供者やスタッフにとっても多くの利点がある。トラウマを抱える患者の多くは、医療提供者と健全でオープンな関係を維持することが困難である。患者にとって、TIC は、自身の医療により積極的に関与することが出来、医療提供者との信頼関係を築くことが出来、長期的な健康状態を改善する機会を得ることが出来る。また、TIC は医療提供者のバーンアウト（燃え尽き症候群）を軽減し、スタッフの離職率低下にも寄与する可能性がある。英語の字幕を表示することが出来る⁵⁾。

(3) Trauma-Informed Care Champions: From Treeters to Healers

数分の動画によって、TIC を提供することの利点が説明されている。虐待、ネグレクト、暴力などの経験が健康に与える影響や、医療現場でトラウマをより効果的に認識・対処する方法を、患者の視点も交えて解説している⁶⁾。

(4) How can health care providers help patients address trauma?

医療提供者は患者のトラウマへの対処をどのように支援できるかについての動画である。それぞれの個人は全ての患者にとって安全で思いやりがあり、包摂的な環境を創出するトラウマインフォームドな医療組織を構築出来る。組織が採用できるトラウマインフォームド戦略は数多く存在し、医療現場の文化や雰囲気における組織的变化から、臨床レベルでのトラウマ対処実践の完全導入まで多岐にわたる。

TIC 入門のページでは、動画に加え TIC の基礎を学べるパンフレットも紹介されている。

いずれの動画や資料に関しても、さまざまな場で活用できると紹介されている。組織の意思決定者に対しては TIC の価値を提示し新規の取り組みへの賛同を得やすくすることが出来る。医療提供者やそれ以外のスタッフに対しては、スタッフ会議において TIC の概念を紹介することが出来る。また、新入社員の研修プログラムに組み込むことなどが紹介されている⁵⁾。

III-3. AAP における取り組み

AAP においては、2021 年「Pediatrics」誌において、ポリシーステートメント：小児医療を提供する臨床医のためのガイダンスとして「小児医療システムにおけるトラウマインフォームドケア」が掲載された⁷⁾。このポリシーステートメントは、TIC は小児科診療のための組織的原則を提供するものであり、トラウマに関連する症状のスペクトルに対する認識を向上させ、感情的に安全なケア環境を促進し、トラウマ曝露の影響を軽減するための具体的な介入を提供するものであるとし、TIC の原則をすべての小児医療のポイントに統合することを促進するために、政策立案者、立法者、医療機関がインフラ、資源、財政的支援の観点から考慮すべきことをまとめたものであると述べ、政府、機関、学術界のリーダーに対し、トラウマが子ども、家族、医療提供者に与える影響を特定し、対処するための効果的な方法を取り入れるよう求めた。小児科医と小児医療の専門家は、トラウマを経験した子どもたちの家族と協力し、支援する上で特別な立場にあるため、トラウマの症状を認識し、対処する方法、発達、行動、健康への潜在的な影響を理解する方法、そしてトラウマの影響を緩和できるような人間関係を育む方法を知ることが不可欠とした。ウェブサイトにおいて、オンライン講義、書籍などを提供している。

AAP のホームページに National Center for Relation Health & Trauma-informed Care へリンクがあり、TIC をレベルに応じて自己学習することが出来る。レベル 1 は TIC と関係性健康の概念を初めて知る個人の学習者または基礎的な概念と戦略を復習したい個人の学習者向け、レベル 2 では TIC の高度なスキルを習得できる。これらの教育資料は無料で利用できる動画を利用した学習であり、小児科医や小児医療の専門家に日常診療でエビデンスに基づいた、トラウマのケアと回復力の促進を実施するための知識とスキルを身につけてもらうことを目的としている。

(1) Trauma-Informed Care Self-Directed Learning : Level 1

Trauma-informed care and Resilience Promotion : トラウマに配慮したケアとレジリエンスの促進

3 シリーズで構成されている。それぞれのシリーズは 2-5 分程度の動画で構成されており、合計 1 時間程度で学習することが出来る。小児科医の実際の臨床場面の対応についての動画であり、理解しやすくまた臨床応用しやすいと思われる。

シリーズ 1 : アタッチメント、レジリエンス、トラウマ

小児科医が 9 歳の患者とその母親とどのように関わり、予測可能な思いやりのある対応を示すかを見ることが出来る。家族が安心して苦痛を表現出来、その苦痛を調節する対応について紹介されている。小児科医は、オープンエンドの質問を投げかけ、レジリエンス重視のアプローチから始めることで、観察、

スクリーニング、そしてレジリエンスの評価を行なうモデルを示す。

シリーズ2：共有する力と難しい対話

小児科医は9歳の患者とその母親と再び向き合い、非言語コミュニケーションが感情の調節や癒しの促進にどう役立つかを示す。小児科医は「見えないスーツケース」の概念を説明し、トラウマに配慮したメンタルヘルス専門家による治療を紹介する。

シリーズ3：ティーンエイジャーとのトラウマに関する対話

小児科医がティーンエイジャーの患者と対話し、トラウマについて話す際の手順を示し、受容・好奇心・共感を示すことの重要性を説明する。

レベル1教育プログラムを終了することにより、トラウマの最も一般的な症状、トラウマが発達と健康に及ぼす影響、レジリエンスを促進するための養育者および医師が活用できる戦略、効果的なスクリーニングおよび観察ツール、トラウマ症状に適切に対応するための技術を理解することが出来る⁸⁾。

(2) Trauma-Informed Care Self-Directed Learning : Level 2

Practical Strategies for Implementing Trauma-Informed Care:トラウマインフォームドケア実践のための実践的戦略

3 時間に及ぶオンライン研修である。米国保健社会福祉省（HHS）疾病管理予防センター（CDC）による財政支援（総額 150 万ドル、CDC/HHS による全額資金提供）の一環として運営されており、2024 年 12 月 8 日-2027 年 11 月 8 日の期間において無償で提供されている。小児科医は、トラウマに曝露した子どもと最初に出会う医療専門家であることが多く、小児期のトラウマや心的外傷後ストレスを早期に発見し対応する可能性が最も高い立場にあるとし、TIC とレジリエンス促進を基盤として解説している。子どもの心的外傷後ストレスを識別し対応する実践的スキル、特に混乱した養育者の状態を調整する支援方法の向上を目的としている。また、関係性の健全性と TIC の関連性を説明し、医療提供者や養育者が関係性の健全性を促進するための戦略を提示している。さらに、年齢層別のトラウマ症状と反応について深く掘り下げ、TIC 介入や向精神薬処方の方針を含んでいる。

以下の 6 モジュールで構成されている。

- 1：関係性の健全性を定義し、それが子どもの発達と生涯の軌跡にとって重要な理由を説明する。
- 2：子どもの心的外傷後ストレスを特定し対応することの重要性を説明する。
- 3：トラウマに曝露した子どもへの薬物療法の適応時期を特定する。
- 4：乳幼児におけるトラウマ症状の現れ方を特定する。
- 5：小児科医やその他の医療専門家が学齢期の子どもや思春期の子どものトラウマにどう対処できるかを説明する。
- 6：養育者によるトラウマ、ストレス、うつ病、物質使用障害が、人間の養育ネットワークの神経プロセスをどのように乱すかを区別する。

TIC について基本的な知識が網羅されている。利用には登録が必要であるが AAP 会員でなくても可能

である。対象は、医師、医師補助、看護師、小児科責任者、小児薬剤師、歯科医、教育者、社会福祉サービス職、オフィスマネージャー／管理者、患者／養育者、学生、他の医療職でない専門家など多岐にわたっている⁹⁾。

(3) 2018 年から 2025 年にかけて TIC に関連する書籍が出版され、ウェブサイトにて紹介されている。主な出版物を以下に示す¹⁰⁾。

The Trauma-Informed Pediatric Practice 2024.8.1 発行

Childhood Trauma & Resilience: A Practical Guide 2021.7. 15 発行

Coaching Families for Resilience 2025.4.1 発行

IV. 考察

NSTSN によって提供されたツールキットは、イラストや図を多用しカラーで作られており初心者にも分かり易いと感じた。また、パンフレットなどの配付資料はカラー印刷をすることが出来、利用する子どもたちにとっても興味を引く資料となると思われ、臨床においてすぐに利用できるように工夫がなされていると考えられた。学習した後に実際に利用することにより効果を実感することにつながりやすく、TIC の理解と普及に適切であると思われた。また、小児がんや慢性疾患の子どもと家族を支援するための動画は、それぞれの専門領域をもつ小児科医のニーズに応えることが出来ていると思われた。

トラウマインフォームドケア導入リソースセンターの提供している約 3 分のアニメーション動画は、大変興味を引きやすくまたコンパクトに重要な要素が包括されて作られており、TIC という新しい概念への入口には最適と考えられた。また次の段階の学びにおいても短時間の動画が用意されており、さまざまな理解度の利用者において取り組みやすいツールを用意することが重要であると思われた。

AAP が提供している講義は、数時間のオンライントレーニングにて繰り返し学ぶことが出来、動画なども組み合わせながら症例に則した学習も含まれていた。臨床に反映しやすい内容が含まれており、基本的な学習を経た後のさらなる学習へのモチベーションを上げる工夫がなされていると思われた。また、英語とスペイン語の字幕が表示され、非英語圏のユーザーへの配慮もあると考えられた。TIC への知識が定着すればより深い理解を求めて成書などを読む機会を求める可能性も高くなると考えられるが、最初の一段階としては短時間で都合に合わせてアクセス出来る動画による学習が適切かと思われる。今回提供されていたツールは、各々可能な時間にオンラインで学ぶことが出来る点や無料提供されていることなど、まさに最初の足がかりには最適であると思われた。

ウェブサイトから米国における TIC を学ぶためのさまざまな取り組みに関する情報を得ることが出来た。小児医療に TIC を取り入れるためには、まずは小児医療提供者へ TIC とは何かという基本的な知識を提供することが第一段階かと思われる。無料かつ数分の動画、オンラインで受講できる講義、すぐに利用できるツールキットなど TIC の概念の学びへのハードルを低く設定していることがうかがえた。また、小児医療提供者である小児科医が多く所属するアメリカ小児科学会において学びの場が提供されて

いることも TIC へのアクセスの容易さにつながると思われた。わが国においても、このように利便性の高いツールの提供へのさらなる工夫が必要であると思われる。

引用文献

- 1) NCTSN ホームページ. WHO WE ARE. <https://www.nctsn.org/about-us/who-we-are>, (参照 2026. 3. 4)
- 2) トラウマインフォームドケア導入リソースセンターホームページ. About the Trauma-Informed Care Implementation Resource Center. <https://www.traumainformedcare.chcs.org/about-the-trauma-informed-care-implementation-resource-center/>, (参照 2026. 3. 4)
- 3) アメリカ小児科学会ホームページ. About the AAP. <https://www.aap.org/en/about-the-aap/>, (参照 2026. 3. 4)
- 4) NCTSN ホームページ. 医療トラウマに関するリソース. https://www.nctsn.org/resources/all-nctsn-resources?search=&resource_type=All&trauma_type=8&language=All&audience=All&other=All, (参照 2026. 3. 4)
- 5) Trauma-Informed Care Implementation Resource Center ホームページ . What is Trauma-Informed Care?. <https://www.traumainformedcare.chcs.org/what-is-trauma-informed-care/>, (参照 2026. 3. 4)
- 6) Trauma-Informed Care Implementation Resource Center ホームページ . Trauma-Informed Care Champions: From Treaters to Healers. <https://www.traumainformedcare.chcs.org/trauma-informed-champions-from-treaters-to-healers/>, (参照 2026. 3. 4)
- 7) Duffee J, Szilagyi M, Forkey H, et al. Trauma-Informed Care in Child Health Systems. Pediatrics. 2021;148(2)
- 8) アメリカ小児科学会ホームページ. Trauma-Informed Care Self-Directed Learning: Level 1.
- 9) [aap.org/en/patient-care/national-center-for-relational-health-and-trauma-informed-care/trauma-informed-care-education-self-directed-learning/trauma-informed-care-self-directed-learning-level-1/](https://www.aap.org/en/patient-care/national-center-for-relational-health-and-trauma-informed-care/trauma-informed-care-education-self-directed-learning/trauma-informed-care-self-directed-learning-level-1/), (参照 2026. 3. 4)
- 10) アメリカ小児科学会ホームページ. Trauma-Informed Care Self-Directed Learning: Level 2.
- 11) <https://www.aap.org/en/patient-care/national-center-for-relational-health-and-trauma-informed-care/trauma-informed-care-education-self-directed-learning/trauma-informed-care-self-directed-learning-level-2/>, (参照 2026. 3. 4)
- 12) アメリカ小児科学会ホームページ. トラウマインフォームドケアに関する書籍. <https://www.aap.org/en/search/?k=trauma-informed+care&+Resilience%3A+A+Practical+Guide=&context=shopAAP>, (参照 2026. 3. 4)